



社交不安症がよくわかる本

貝谷久宣 監修
(講談社)

人と接するのが怖い、オフィスで電話に出られない、視線が気になる、汗が気になってしかたがない。社交不安症の正体から最新治療法まで、豊富なイラストとともに徹底解説する。



月の満ち欠け

佐藤正午 著
(岩波書店)

自分が命を落とすようなことがあったら、もういちど生まれ変わる。この娘が、いまは亡き我が子？いまは亡き妻？いまは亡き恋人？そうでないなら、はたしてこの子は何者なのか。さまよえる魂と数奇なる愛の物語。



児童書 フフフ

(幼児向け)

高畠那生 絵
(絵本館)

フフフと舞うダチヨウの羽根。それが、すべての始まりだった！羽根をすくいこんでしまったカバが「ハックシヨ」と大きなクシャミをする。それに驚いたダチヨウの群れが「ダチヨウ！」と走り始め。

6/8 読書クラブ おひさまのおはなし会

読書クラブおひさまの皆さんによる紙人形劇や手遊びを行います。
▶とき 6月8日(木) 午前10時30分～▶ところ 総合福祉センターしいの木▶対象 乳幼児

6/17 ゆめっ子のおはなし会

▶とき 6月17日(土) 午後1時30分～▶ところ 社会教育センター幼児遊戯室▶対象 小学校低学年、幼児

▶問合せ いずれも、社会教育センター図書室 28・5449

豊山俳句クラブ

青山克己 選

ゆく春の日陰となりぬ家二軒 村上ゆり子

風うるむ今宵大きな春の月 小塚美枝

軍服の父の遺影にリラの花 岡島 齋

紋白蝶ひらひら飛んで蛙跳んで 杉本えり子

過ぎし日の記憶の欠けら春霞 坪井径子

竹林の尖り冴えたる寒の月 安藤春一

菜の花と海と岬の分教場 青山とも子

しがらみを解き放たれり花の朝 水野真弓

国なまり花の下にてのどかなり 谷崎 琴

さくらからさくらへぬける風の道 高木須磨子

さくらからさくら色なる空の波 田村多喜子

ふるさとの見へる天守やさくら咲く 坪井昭子

特攻のゆるがぬ思ひ母子草 杉浦みどり

きつねたぬき子ぐまも村の入学式 石黒貴代子

しじみてふふはふふとほぐれけり 青山克己

豊山歌壇

水野笑子 選

誕生の記念とサンシユ植ゑし孫 柴田満枝

子の生れて知るや親の心を 柴田満枝

早口で喋りし友は変はらずに 鈴木久子

目を逸らし気味に話す癖あり 鈴木久子

孫の訪れ待つ夫の顔に笑み浮ぶ 鈴木弘香

トランプ負けても楽しと言ひて 鈴木弘香

体脂肪平均値内と聞きたれば 中澤芳子

まだ若いんだと自らに言ふ 中澤芳子

「皆おいで」年上美代ちゃん取り仕切る 弘法さんへ塩豆貰ひに 水谷弘子

缶蹴りと夢中で走りし鬼ごっこ 水野勝代

幼な友達は心の古里 水野勝代

アサリ汁赤みそにして仕上がれば 村上一枝

知多の海岸厨房にある 村上一枝

戦中も共に過ごせし幼な友 山田 米

共に老い入いとしき増しぬ 山田 米

夫の着し茶色のセーター 渡辺トヨ子

逝きて十年動かさずあり 渡辺トヨ子

赤白帽かぶりし園児らあどけなき 荒川昌枝

思はず吾も手を振り返す 荒川昌枝

編集後記

薔薇の咲く季節を迎えた。神明公園でも、ボランティアの方々による美しいローズガーデンが来園者の目を楽ませている。薔薇の花言葉は、色により異なる。赤い薔薇は「愛情情熱」、白は「心からの尊敬」、ピンクは「感謝」などである。▼花言葉の発祥は、諸説あるものの、十七世紀頃のトルコだと言われている。トルコでは恋人への贈り物として、文字や言葉ではなく、花に思いを託して贈る風習があった。六月十八日は父の日である。感謝の思いを花で伝えるのも喜ばれるだろう。▼父や母を含め、誰しもが老いを迎える。超高齢社会の我が国では、七人に一人が認知症という統計もある。今月号の特集では、認知症初期支援チームについて取り上げた。医学の進歩で、進行を遅らせることは可能だ。町や医師、看護師などがご家族と一体となって、早期対応に当たる。▼認知症に対する正しい知識と理解を広めるため、認知症サポーターの養成も進めている。どなたでも、研修を受講すればサポーターになれる。認知症サポーターの証は、手首につけるオレンジ色のリストバンドだ。▼認知症患者を支えていくためには、家族だけでなく、地域の人々の理解と協力も欠かせない。まさに、オレンジ色の輪が広がるとよい。オレンジ色の薔薇の花言葉は、「絆、信頼」である。